

第74回横浜市都市美対策審議会景観審査部会議事録	
議 題	<p>議事1 藤が丘駅前地区における景観形成について（報告）</p> <p>議事2 水際線まちづくりについて（審議）【非公開】</p> <p>(1) 臨港パークの整備計画</p> <p>(2) 山下公園の整備について</p> <p>(3) 照明整備について</p> <p>(4) 案内サイン整備について</p>
日 時	令和6年11月28日（金）午前10時02分から午後0時11分まで
開催場所	横浜市役所 18階 みなと4・5会議室 （横浜市中区本町6丁目50番地の10）
出席委員 （敬称略）	中島直人、加茂紀和子、北原まどか、東海林弘靖、山家京子（リモート）
欠席委員 （敬称略）	川村篤志、福岡孝則
出席した 幹事・書記	<p>書 記：松本 光司（都市整備局企画部長）</p> <p>古檜山匡和（都市整備局地域まちづくり部長）</p> <p>馬場 明希（都市整備局企画部都市デザイン室長）</p> <p>立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）</p>
関 係 者	<p>【議事1】</p> <p>関係局：寺井 宏治（都市整備局市街地整備部市街地整備推進課長）</p> <p>阪本 健一（都市整備局市街地整備部市街地整備推進課担当係長）</p> <p>光田 麻乃（都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課長）</p> <p>奥村 創（都市整備局地域まちづくり部地域まちづくり課担当係長）</p> <p>事業者：学校法人昭和医科大学</p> <p>【議事2】</p> <p>関係局：芹澤 功悦（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当課長）</p> <p>落合 剣人（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当係長）</p> <p>加藤 裕隆（港湾局みなと賑わい振興部整備推進課長）</p> <p>増田 雄祐（港湾局みなと賑わい振興部整備推進課担当係長）</p> <p>関口 昇（みどり環境局公園緑地部公園緑地事業課長）</p> <p>中橋 洋平（みどり環境局公園緑地部公園緑地事業課担当係長）</p> <p>守屋 朋廣（にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略部にぎわい創出戦略課長）</p> <p>松永 由織（にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略部にぎわい創出戦略課担当係長）</p> <p>馬場 明希（都市整備局企画部都市デザイン室長）</p> <p>桂 有生（都市整備局企画部都市デザイン室担当係長）</p>
開催形態	一部非公開（傍聴者：1名）
決定事項	<p>【議事1】 本日の意見を参考に、手続きを進めていくこと。</p> <p>【議事2】 本日の意見を踏まえて、都市景観アドバイザーに相談しながら、より良いものになっていくよう検討を進めること。</p>
議 事	<p>開 会</p> <p>（立石書記）</p> <p>ただいまより第74回都市美対策審議会景観審査部会を開催いたします。私は事務局の都市整備局景観調整課長の立石でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、ご出席の委員の紹介と部会の成立について申し上げます。本日は、中島部会長、加茂委員、北原委員、東海林委員、そしてリモートで山家委員にご出席いただいております。よろしくお願いいたします。なお、川村委員と福岡委員からはご欠席のご連絡をいただいております。よって、委員7名中5名のご出席となりますので、都市美対策審議会運営要領第13条4項の規定により、部会成立といたします。</p> <p>次に、事務局の紹介です。書記は、都市整備局企画部長松本、地域まちづくり部長古檜山、都市デザイン室長馬場、そして私、立石が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。また、議事事項の関係職員、議事録作成のため速記者が同席しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

す。

本日の議事は、報告案件1件、議事2に審議案件が4件ございます。ここから中島部会長に議事進行をお願いいたします。

(中島部会長)

中島でございます。景観審査部会の新体制になってからは最初ということでよろしいでしょうか。私も実は都市美対策審議会自体も2期目でして、前は政策検討部会ですかね、そちらのほうに参加していたので、景観審査部会は初めてでございます。この後、進行にもしかしたら不手際があるかもしれませんが、皆様のご協力でスムーズに審議を進めたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に会議の公開について、事務局から説明をお願いします。

(立石書記)

本日の議事2については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第7条第2項第5号、市の事業等の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるものに該当することから非公開としたいと思います。

(中島部会長)

ありがとうございます。今、事務局から議事2については非公開という提案がありましたけれども、そのような扱いでよろしいでしょうか。

(異議なし)

(中島部会長)

それでは、異議がないようでございますので、議事2につきましては非公開といたします。

それでは、議事に入ります前に、事務局より報告事項があると聞いております。よろしくお願いいたします。

(立石書記)

まず、本日は傍聴の方がおられますので、傍聴人の方へ注意事項を申し上げます。傍聴に当たっては、お手元の「傍聴にあたってのお願い」を守っていただきますよう、傍聴される皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、お願いを守っていただけない方にはご退室いただきますので、ご承知おきください。

次に報告事項です。内容は、都市景観アドバイザーの選任についてです。9月1日の都市美対策審議会、親会のほうで加茂委員を選出したことをご報告しております。今回、野原会長も都市景観アドバイザーに選任させていただきました。今後は2名体制で進めてまいります。よろしくお願いいたします。

(中島部会長)

ありがとうございます。

議 事 1 藤が丘駅前地区における景観形成について（報告）

(中島部会長)

それでは、早速議事に入っていきたいと思っております。議事1について事務局から説明をお願いいたします。

関係局（都市整備局市街地整備推進課）より説明を行った。

(中島部会長)

どうもありがとうございました。それでは、まず本日ご欠席の委員の方からのご意見は頂いていただけますでしょうか。

(立石書記)

本件に関して福岡委員からご意見を頂いております。2点ございまして、1点目、全体的にととも良い計画になったと思えますということです。2点目として、今後、病院Ⅱ期棟3階のルーフ部分の活用についても、市と病院とで運営方法も含め連携していけると、よりよい空間になると思えますというご意見を頂いております。

(阪本係長)

病院Ⅱ期棟3階というのがどこかという、テラス部分になります。屋上になっている部分です。

(中島部会長)

ありがとうございます。それでは、皆様から何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。報告案件で前回からの継続案件ということで、今まで既にご意見を頂いているかと思うのですが、何かございますでしょうか。北原委員、お願いいたします。

(北原委員)

公募市民委員で今回初めて審議に参加させていただきます。感想ということで1点、市民的な目線から意見を述べさせていただければと思います。私自身、この藤が丘エリア、また、昭和医大、藤が丘駅前公園というのは、地域住民の利用者でもあるということで、こちらの計画は大変関心を持って拝見させていただきました。そして、とてもすてきなプランで、こういった病院と緑地が一体化した計画ができるということに、とてもわくわくしたうれしい気持ちになって拝見しております。私はよく、藤が丘商店会の方々ですとか住民の方々と、やはりこの病院の再開発、駅前再開発ということに対して様々な会話を日常的に交わすことがある中で、地域住民の方々というのは、駅前からの緑であったり、空の抜け感というものを非常に愛して大事にしていच्छやるということを感じておりまして、それらに配慮されたすてきな計画ができるということにおいて、今後、広報していくに当たり、この再開発がどのようなコンセプトでどのような計画が立てられ、周辺住民とかにリスペクトを持ってこの計画が立てられていることの伝え方というのが大事になってくるのかなと思います。パースを見ていてもこのすてきな感じというのが、多分、病院と駅という、そうした決められた敷地の中で計画がきちんと進んでいるというような絵の見え方をしておりますけれども、ぜひ商店会側の、公園の北側のほうですかね、そちらの例えば街路樹とどのように一体化していくのかということだったり、そこの歩道を日常的に歩く方が、今歩いている日常からこの景観がどのように見えてくるのかをイメージできるようなパースの広がりみたいなものが街との一体感のところで見えてくると、この情報を見る方が今後、よりうれしい気持ちになってこの景観というものを待ち望んでくださるようになるのではないかと思いますので、その絵の出方の範囲みたいなのも少し検討いただけるとよいかと思います。

(中島部会長)

どうもありがとうございます。特に商店会、北側の道ということですよ。先ほど、前回の意見の一つに周辺のにぎわいへの接続というところが、エリマネの話がありましたけれども、エリマネだけでなく、恐らく今のような空間設計のところにおいても、既にご検討されているんでしょうけれども、確かにその部分のパースとかがこの中にはないので、そういうところもぜひしっかりと提示していただきたい。多分、次回が具体的な設計に対する承認の回になるので、そこではぜひそちらのほうもよろしく願いますということでしょうか。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。大丈夫でしょうか。ということで、前回の審議会の中で出た設計に関するご意見に真摯に対応していただいているということで、今申し上げたとおり、次回、来年の夏頃ですか、そこでの具体的な審議の中でまた検討していきたいと思います。報告事項でございますので、よろしいですね。それでは、議事1は以上したいと思います。

## 議事2 水際線まちづくりについて (審議)

(立石書記)

議事2に入ります。議事2につきましては、非公開となりますので、傍聴の方はご退席をお願いします。議事2は、水際線まちづくり関連の4件の個別整備についての審議になります。まず、水際線まちづくりの概要をご説明した後に4件の整備を続けてご説明いたします。ご審議は、個々の整備について順番にその後お願いしたいと思います。なお、全体計画である水際線まちづくりコンセプトプランにつきましては、11月5日の政策検討部会で審議されまして、方向性について了承されております。今後、市民意見募集がございますので、それとともに本日の意見も含めて反映していくということで考えております。よろしく願います。

関係局(水際線コンセプトプラン：都市整備局臨海部活性化推進課、臨港パーク：港湾局整備推進課、山下公園：みどり環境局公園緑地事業課、照明計画：にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略課、サイン計画：都市整備局都市デザイン室)より説明を行った。

(中島部会長)

どうもありがとうございました。それでは、今の4つを順番に皆様からご意見を頂いていきたいと思っております。

最初に（１）臨港パークの整備計画ですね。これにつきまして、まず、本日欠席の委員からのご意見を頂けますでしょうか。

（立石書記）

福岡委員から頂いております、まず、水際線まちづくり全ての整備計画について共通ということで頂いております。今、画面に映っておりますが、全整備に共通事項として、「点」として多くの施設を整備する計画になっている点を懸念する。エリアの規模、特徴、つながり等に、これまでの歴史や経緯を踏まえた上で、新たな施設がもたらす風景の変化が果たして問題ないものなのかどうか。水平面でなく立体的にもう少し引いた目で風景の確認をしたほうがよいのではないかと。時間がない中、急いで物だけを置かないようにしてください。床、舗装、施設、植栽なども併せてランドスケープ全体像を４プロジェクトでしっかり計画・設計してほしいという、全体に対してのご意見です。

それで、今ご審議の対象になります臨港パークの整備計画につきましては３点ございまして、新設するファニチャー一つ一つは良いものだが、引きの目で見たときに、その場所に適切なデザインであるかを検討してほしい。２点目、プロムナードの舗装について、イラスト上はデッキになっているが、機能性を考えると、人が歩くところでなく、ビューポイントなど滞留するところをデッキとしたほうがよい。また、ビュースポットには、椅子に座って海を眺められるような機能を持たせることも検討の余地があるのではないかと。３点目です。全体的に何を目標として公園の改修等を行うのか、そのスタンスがよく分からないというような意見を頂いております。

（中島部会長）

ありがとうございます。最後の、何を目標しているのか分からないと言われてしまっているんですが、これに対してまず事業局のほうから何かありますか。

（増田係長）

ご意見ありがとうございます。臨港パークは今、課題等出させていただいているんですけども、かなり具体的な話になっておまして、先ほどご説明しましたとおり、臨港パークには上位計画、基本計画というものがございまして、それらの考え方を踏襲して行って、先人たちの英知の結集で整備された、かなり洗練されたものになっておりますので、これらを生かしつつ、全体の構成を考え、具体的なものに落とししていくということをこれから進めていきたいと考えております。その中で、都市景観アドバイザーの助言をいただきながら、みなとみらい２１中央地区における公共施設デザイン調整会議において個別具体的な検討を進めていきたいと考えております。以上です。

（中島部会長）

分かりました。また委員の皆さんからご意見を頂いた後に議論したいところですが、それではほかに。山家委員、お願いいたします。

（山家委員）

山家です。よろしいでしょうか。私も先ほどの福岡委員の全体に対する意見ともちょっと重なるのと、今回の付議内容をちょっと超えるのでこの場でお話しするのが適切かどうか分からないんですが、既に事務局にもお伝えしているんですけども、一言で言うと、ふだん例えば景観審査部会であると、民間のプロジェクト等に対してのアドバイスであったり助言を行ってきているわけなんですけど、横浜市がコントロールできるパブリックスペース、この水際線という非常に稀有な事例に対して、これまで先進的な都市デザインを行ってきた横浜市としてもっと攻めてもいいんじゃないかなというのがざっくり申し上げたいところです。今ご説明いただいたように、コンセプトプランで水際線のまちづくりという位置づけになっていて、個々についても整備という位置づけで景観審査部会で都市景観アドバイザーの助言を得てというふうになっていて、そのあたりは非常に理にかなっていますし、そういう立てつけであれば、市民の方にとっても非常に分かりやすい内容になっていたかなと思います。ただ、やはり全体を通して見る視点であるとか、そういうのを考えたときに、もう少し整備を超えてデザインという視点が入ってきてほしいなというのが、私が個人的に強く思ったところでした。

例えば、今回のデザインに関してはかなり詳細な検討が進んでいるので申し上げにくいところではありますが、それぞれこの絵を描いた人、設計者、デザイナーがいるわけで、その方々が今現在、匿名でいいのかと。例えば開港広場や馬車道は名のあるデザイナーが記名でしっかりと仕事をされてきたという歴史もあります。もう一つ気になっているのは、特に公園、臨港パークや山下公園について、整備という視点であれば、現状、こういうところをもう少し改善すべきである、不備があるところをこんなふう改善すると良くなるという視点は非常に理解できるんですけども、やはり公園全体をデザインするといったときのストーリー、先ほどの福岡委員であれば、例えば山下公園の場合だ

と歴史であるとかそうしたお話がちょっと見えてこない。何をデザインとして継承していくのかというのがちょっと弱いのかなと感じました。なので、何かデザインチームを持ってこの水際線のデザインに向き合うというような体制になるといいのになと思って聞いておりました。今回の付議されている内容でもありませんし、かなり詳細な検討が進んでいる中でこうしたご意見を申し上げるのはどうかと思いましたが、ちょっと気になったので伝えさせていただきました。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。先ほどの福岡委員のご意見とも重なるところでございますが、市の方針と整備との間にもっと、どういうデザインの哲学というか考え方でやっていくのかということところがちょっと伝わりにくいということだったと思います。ほかいかがでしょうか。ぜひ皆様のご意見を。加茂委員、お願いいたします。

(加茂委員)

加茂です。全体に関しては、やはりこの水際線をどうしていくかという、かなりそういうところに来ていますので、景観審議からのことなのか、あるいはもっと上位の政策のほうになるのか分からないんですけども、どういう水際にしていくかという議論は非常に大切なものだと思います。

今この臨港パークのことだけで言いますと、これを見させていただいたときに、今現在、例えばキング軸の現況という写真があったり、パースがあって、現状はもう既にティンバーワープがあるわけなので、この写真は「4. 改修方針（キング軸接続部）」ですかね、私はあまりここに行ったことがないのですけれども、例えばキング軸を歩いていくと、ぼーっと海に向かって広がり感のあるような写真があるんですけども、それに対して、パースの描き方もそうなんです、歩道の幅を何のために広げるのかなど。そこに人がたくさん行くというイメージを持っているのかなど。あとは何か恐怖感のあるようにベンチがやたらものすごい多く設置されていて、何でこんなに座らなきゃいけないのかなとか、何かそういうちょっと過多、施設過多という状態が全体に見られるような気もしました。

あと、私がちょっとあつと思ったのは、ビュースポットをつくるのはいいんですけども、例えばロングベンチをつくる。ロングベンチというのはほかにも出てくるんですけども、たくさんの人がずらずら並ぶというイメージをされているかと思うんですけども、今、釣りの人たちが釣りスポットとしてこの辺りに行っていたりとか、何かここにある魅力、ちょっとぼーっとしている魅力とか、人の居場所、居心地というのは、ただ座るだけじゃなくて、そこに関連しているそういう行為みたいなものがあるのに、このロングベンチは完璧にそれを排除しているというイメージがあります。なので、「点と線と面」でつなげていく、そしてとにかく世界に誇れる水際線をつくるというのはいいんですけども、何かその辺が一様で、今あるこの場所のよさとか、ぼーっとした感じとか、それも一つのよさなんじゃないかと思うんですけども、その辺が失われているような気もしました。

歩かせるというのもちょっと脅迫的で、ここ（プロムナード舗装）のところを赤く塗っちゃっているんですよね。ウッドデッキをやるのか、中の堤防を変えるのが分からないんですけども、人がたまるような場所は、さっき福岡委員からもありましたけれども、色彩を変えたりとかそういう転換が必要なかもしれませんが、歩かせるために赤く塗るというのはちょっと過多なんじゃないかと。確かに横を見ると花壇とかが邪魔でこうやって避けて行かなければいけないんですけども、これだけ広がりのある水際線が既にあるので、5キロもそんな日常的に歩く人はいないと思いますが、歩きたくなるというのがただ示されれば歩きたくなるものなのか、そのあたりを考えたほうがいいのかなと思いました。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。ほかの委員の意見も聴いてから。いかがでしょうか。東海林委員、お願いします。

(東海林委員)

東海林でございます。加茂委員のお話をお聞きして確かにと思ったんですけども、絵を見ると非常に長い、赤いベルトのようなものが出てくるというのは、かなり高圧的な感じがするかなという気はしますね。それぞれの点が断続的につながっていて魅力をつなげていくみたいなことはすてきだなと思いますけれども、何か無理やり歩かせるとおっしゃるように、確かに印象としてはそんな感じがするので、ある部分でこういったベルトのようなものが人を誘導していく、赤いじゅうたんみたいな感じですよ。それは全面的に否定するものではないんですけども、もうちょっと工夫が要るかなと思います。時々ゾーンで切っていくとか、少しずつでも色が変わっていくとか、素材が変わるとか、そういった工夫がないと、取りあえずつくっちゃったみたいな感じになっちゃうと嫌だなとい

う感じがいたします。

(中島部会長)

ありがとうございます。ほかの委員の方々、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。ということではかなりネガティブな意見が出ているんですが、私も似たようなことを感じていて、ちょっと違う視点から言いますと、空間の整備の話はあるんですけども、このパースとかを見ていると、要はこういうようなパブリックライフを生み出したいという、恐らくそういういろいろな考え方があると思うんですが、そのときにはまず大前提として、現状でどのようなパブリックライフというかアクティビティがどこにどのように発生していて、それはやはり尊重するものは尊重するし、その何かを少し変えることで、この望ましい公園に活動がどう生まれるかということだと思んですが、そのあたりの現況の把握が何となく飛ばされているような気がしまして、すごく印象論というか、印象でこの辺に人がいないとか、この辺がどうだという感じなんですけれども、そのあたりはもうちょっと現況把握がしっかりあると、この公園で何を指すのかというのがもっとはっきりするのかなと思いました。なので、その中で例えば先ほどの釣りの方々とかの話も真剣に考えたほうがいいんじゃないかと私は思っていて、それが何で駄目なのかとか、それに対してパブリックライフのイメージのほうが今度はいっと貧弱になっているとか、ほかの公園でもできそうなことが出てきちゃっているので、まず人の活動のことについてももう少し大前提として、現況もそうだし、ビジョンでもしっかりと示してほしいなと思いました。

そのときに、先ほど攻めたほうがいいというご意見があったんですけども、今、こういう公園整備の中でかなり課題になっているのは、やはり夏の暑熱対策だと思うんですよ。相当暑くて、6月から10月までほとんど人が使えない。その状態がいいのかどうかという議論がまずあって、せっかくこういう空間があるなら、もうちょっと夏のときにどうやって人々が楽しめるかということを考えて、もっとやるべきことがいろいろ出てくるんじゃないかとか、もう少しテーマをしっかりと設定したほうがいいのかなと思いました。何となく途中で矛盾しているというか、例えば高木とかは残して中低木は切るけれども暑熱対策のために何かをしますと、テーマとしては書いてあるんですけども、それが具体的な話にどうつながるのがちょっと見えにくいなと思ったりしました。

全体として多分、皆さんが心配されているのは、現況に対して、若干言葉が難しいんですけども、面整備のほうが先に決まっていて、何か物を付け加えるということが先に全部あるんですけども、まずはしっかりと現状を把握して、生かせるところとか良いところはもちろん良いままだと思いますし、自然な動きがあるところは自然な動きを尊重しながらツボとなるようなところをしっかりとやっているんだということが何か説得力を持ってもうちょっと伝わるようなプランになっていると、みんながもっとポジティブになるのかなと思いました。

これはほかのところにも通じそうなんですけれども、とにかく福岡委員からもあるように、先に物がどんどんつくられるということに皆さんちょっと懸念をいただいているので、そこはお願いいたしますという感じでしょうか。では、一回全部行ってから最後にもう一回戻ったほうがいいかもしれないですね。

次は山下公園なんです。

(立石書記)

東海林委員につきましては、山下公園の照明と3の照明整備について関係者となっておりますので、委員として発言できませんので、一時ご退室いただくことになります。申し訳ございません。

(中島部会長)

では、東海林委員はすみませんがご退室ください。

山下公園について、欠席の委員からのご意見はいかがでしょう。

(立石書記)

読み上げます。福岡委員からご意見がありまして、整備計画の全体を見たときに、これまでの歴史や経緯を継承するところと改めて見直すところがどのような検証を基に計画されたのか、よく分かりません。2点目、公園内もエリアごとに特徴があるので、物を置くだけの即物的な対処にせず、過去を生かしながら山下公園全体のランドスケープを今後どのようにしていくのか、スケール検討なども含めてしっかり取り組んでほしいということ。

東海林先生から山下公園の整備について、照明計画を除く部分のご意見を頂いています。全体的に丁寧にデザインも考えられていて、うまく進められていると思います。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。それでは、山下公園の整備につきましてご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。加茂委員、お願いいたします。

(加茂委員)

先週ご説明いただいたときにもちょっと申し上げたんですけれども、通り沿い側、歴史的街区側のうっそうとした部分を整備して、そこも歩ける部分と滞留するという、すごく大きなベンチがあったりとかそういうことなんですけれども、既存樹木をどれぐらい切ってしまうのかというのがちょっとよく分からないんです。イメージとしては通り沿い側をいろいろな植物というんですかね、花壇みたいなものを植えてそういうゾーンにしたいというような、花をめぐるといいますか、そういうゾーンにしたいというところもあるのかなと思うんですが、ここはやはり通りを、歩道を拡幅して何となくじわじわと山下公園のほうに行けると、今ここは石柱のバーが結界になっていて、それでなかなか向こうに行けないとか、限られたところで行くような状態になっているんですけれども、それこそここはいいプロムナードになるんじゃないかと思っていて、そうすると、緑の中を、緑陰の中を歩けるようなスペースという位置づけのほうが、今現状の全体ではあるのかなと思ったんです。それで、一応、歩道とかも整備されているんですけれども、例えば今のバーを全部ベンチにするような感じで、人が歩いている横に果たして座りたいものなのか。それが横一列にだーっと並ぶような座り方をしたりとか、あとは縁台と呼ばれている大きな縁台があるんですけれども、そこでどういう感じで人が寝転ぶのか想像がつかないんですよ。割と都市部の公園で、ほっこりしている部分ではないので、そんなところに寝転ぶ人は、逆に問題になることが出てくるというぐらいの感じの印象をここに関しては受けました。

山下公園はやはり歴史のある公園ですし、横浜といえばこれが公園なので、私も若い頃に行ったりしましたが、やはり海を見る視線というのはすごく重要で、そこにふらっと行って眺めるには、実は2人がけのベンチがいいんじゃないかという感じもするんですけれども、そこでもやはりロングベンチ化するというのもちょっと、何でこんなに座らせるんだろうみたいな印象を山下公園でも受けました。なので、残すものは残すということで、その場を演出する照明は、ベンチの下を何となくほわっと照らしたりとか、そういう割とパッシブなやり方をされていると思いますけれども、やはり少し過多になってくる部分がここでも否めないのかなという印象を持ちました。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。北原委員、お願いします。

(北原委員)

先ほど中島委員がおっしゃったことと重なるんですけれども、暑熱対策というのが私も山下公園の計画を見ているときに非常に気になっていたところで、自分も市民として山下公園を歩く、あるいは家族で遊びに行くことが大好きというところで考えましても、夏はほとんど歩いたり座ったり、ましてやベンチで寝転ぶときに日差しを顔からどう遮るのかみたいな、そういう具体的なことがものすごく思い浮かんだんですね。そうすると、この計画の中に、やはり暑熱対策あるいは日陰であったり水や虫の対策であったり、そのことがかなり重要に割かれて記載されるべきではないかということ、過ごし方ということ考えたときに非常に感じました。

(中島部会長)

ありがとうございます。山家委員、山下公園で何かございますか。

(山家委員)

山家ですけれどもよろしいですか。山下公園はやはり皆さんご存じのとおり非常に歴史を継承しているところもあります。それが石柱をリデザインする形で一部取り入れられているところもあるんですけれども、そのあたりを全体でどう継承していくのか。あるいは、緑の軸をそのまま水際線のほうに延ばしていくというところからも、緑の軸は別に植栽を規定するものではないけれども、どれぐらいの密度感があると緑の軸を感じさせるかとか、そのあたりはあろうかと思うので、やはり何となく部分のデザインになっているように見えてしまうので、全体をどのようにデザインとしてストーリーをつないでいくのかというあたりを今後見てみたいなと思いました。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。では、私のほうからも少し。今までもう既に出ていることではあるんですけれども、まず今回の公園通り側のほうの公園と海側をつなぐというのはとてもいいことだなというか、これはWithout bordersというんですけれども、まち側と公園との境をいかに解消していくかというのは世界的な潮流としてあるわけですが、その中でまず考えてほしいなと思ったのは、街路樹もしっかり描いてほしいなと思いました。多分、ここの道際のところには街路樹があるので、その街路

樹との関係の中で、恐らく先ほど加茂委員が少し懸念されていたような、ここに人が座るのかとか、気持ちいいのかというのが決まってくるので、図面にはそれを描きながら検討してほしいということと、できれば本当は改善まで。今、片側しか描いていないんですけども、道路があつてその向こう側からこれがどのような関係にあるのかということも、まさに公園とまちをつなぐ大事なところなので、ちょっと図面として不完全だなと思いますので、その検討を。

あと、先ほどの暑熱対策という意味でも、ここでの植栽の中にベンチを置くというのはとてもいいことだと思つていまして、夏でも新たに涼しい場所ができそうだというのはいいいんですけども、そのときに、たしか海側のベンチだと幾つかのパーツに分かれてコンセプトがありましたけれども、恐らくこっちの植栽帯のほうもワーフハウス側と向こう側とではちょっと緑地の性格というか、人々がどのように使うかという性格が変わってきそうな感じがするので、今、一様に何となく、一様ではないのかもしれませんが、コンセプトとして説明されなかったので分からなかったんですけども、どこでも同じように入れる同じようなベンチの組合せではなくて、もう少し場所の性格みたいなものを考えてもいいのではないかと思います。でも、そういうのもやはり既存の、現状でのもう少し場所の性格が分かるような調査が必要なのではないかと思います。要するに、今それぞれの山下公園の場所をどのように人々が使っているのかというその根拠がないと、なかなか思い切った整備の方針を立てにくいのかなと思つたので、これは先ほど言ったことと一緒にですけども、もうちょっと現状の人々がどのように使っているかということのデータが示されたほうがいいし、そのほうが良いデザインになりそうだなと思つたので、それが気になったこととさせていただきます。

次の照明のほうに移りたいと思つます。

照明のほうはいかがでしょうか。

(立石書記)

照明のほうは福岡委員だけです。1点目、各エリアのコンセプトが資料からは分かりませんでした。コンセプト、エリアの特徴に沿って光のデザインをしたほうがよいと思つます。2点目、ポール照明は規模が大きいので、既に水際線には周囲の建物の照明等で魅力的な夜景がつくられている中、新たに照明を追加する必要があるのか、本当に風景の邪魔になっていないのか、昼間の風景も含め、最終的にどう見えてくるのかをしっかりと検証してほしいという意見でございます。

(中島部会長)

ありがとうございます。これについてもご出席いただいている委員の方々、いかがでしょうか。照明整備について。お願いいたします。

(加茂委員)

私もまだ照明について全体が理解できていないのかもしれないんですけども、この前ご説明を受けたときに、水面を照らしていくというのはすごいなと思つて見ていたんですけども、5キロ全部これをやるのかどうかということが疑問でした。やはりこれもちょっと過剰のような状態で、今、臨港パークのほうにも立柱的な既存の照明がありまして、これからオンされるのはできるだけその照明の部分だけで、それ以外のポール状のものは姿を消すような形でデザインされているんですけども、それがこの断面を見ると、意外と10メートルぐらい離れているところから二重にばーっと照らしているみたいな感じがあつて、スポットのようにいくのか、そこがどういうことなのか、専門ではないので分からないんですけども、欄干を照らすぐらいで水面がばーっとなったりしないのかなとか、それは技術的なことが分からずに言うんですが、ここはでも、オブジェクトとしての照明をオンしていくというのはどうなのかなというところが疑問としてありました。色が変わるとかイベントに対してカラーがというのも、これは多分、全域をやるということではなくて、臨港パークのエリアだけということになるのかもしれないんですけども、その辺の規模感と全体性ということですね。やはりこう書かれていると思うんですね。山下公園には山下公園らしさ、象の鼻には象の鼻らしさということで多分、計画がされていると思うので、そこも今あるナイトシーンというんですね、ロマンチックな部分はロマンチックな部分として残していただきたいし、ちょっと薄暗くて怖いようなところはやはり路面を照らすとか、そういう安全性みたいなものを確保するという使命もある。でも、やはりロマンチックな部分があつたほうが、遠目に見える建物のライトアップが引き立つような部分とかいろいろあると思うので、その辺を注意深く計画していただければという印象です。よろしくお願ひします。

(中島部会長)

ありがとうございます。ちなみに海を照らすというのは、これで実験されたということですよ。ご意見がありましたけれども、10メートルのこれで多分、海を照らせるということですよ。

(松永係長)

1 ページ目に、海に映る照明の設置する範囲を黄色い点線でお示ししております、基本的には5キロにわたって連続的にと考えております。これを山下公園と臨港パークについてはポール照明で実現するんですけれども、それがちゃんと海に映るといことは実証実験において確認しております。

(中島部会長)

だから、これは既存の公園の中の照明とは別の機能なんですよ。

(松永係長)

別の機能になります。

(中島部会長)

既存の照明は残るんですよ。

(松永係長)

残ります。

(中島部会長)

歴史的な意匠があって、そこにこれをと。

(松永係長)

そして、より魅力的な夜景をと考えております。

(中島部会長)

ありがとうございます。改めて理解しました。どうでしょうか。照明に関してほかにご意見ありませんでしょうか。オンラインの山家委員、何かございますか。

(山家委員)

皆さんと同じで、あのパースを見る限りは、場所が5キロと限定されているにしても、なかなか強いなと思いました。やはり既存の夜間景観が多いところですし、既存の夜間景観に水際線が少し見えてくるようなさじ加減、パースなので実際のところはよく分からないんですけれども、であるといかなと思いました。以上です。

(中島部会長)

ありがとうございます。照明のほうは、今整理するところが強調されていて、そこにフォーカスを当てられているんですけれども、それ以外の実際に今ある照明だったり、もっとナチュラルな照明というか、自然にある光の風景というのもあるので、それとどのようにこれが関係してくるのかというところがもうちょっと説得力を持ってくるといいのかなという感じが私もしましたが、基本的にはとてもいいということだと思っています。

それでは、最後のサイン計画に移りたいと思います。東海林委員お戻りください。欠席委員からの意見はありますか。

(立石書記)

ここで、東海林委員にお戻りいただきます。4番の案内サインの整備につきまして、福岡委員から意見を頂いております。一つ一つのデザインやコンセプトはしっかりしてとても良いと思います。2点目、ルートサイン等の実際のピッチが分かりづらく、引いて全体を見たときにここまでの数が必要なのか分かりませんでした。3点目、結節点サインについてもここまでの高さが本当に必要なのかと思いました。

あと川村委員から、案内サインの整備につきまして2点ございます。結節点サインについて、どこからでも分かるよう、視認性から高さを4メートルにしているとのことだが、大き過ぎるのではないか。2点目、結節点サインの大きさが寸法をお聞きしただけではつかめないの、モックアップをつくって現地に設置して確認してみたいかというご提案をいただいております。

(中島部会長)

ありがとうございます。それでは、ほかにご意見ございますでしょうか。ご出席の委員の方、いかがでしょうか。お願いいたします。

(加茂委員)

私もこの結節点サインの4メートルというのはちょっと。しかもそこにも照明が入ってくるということですので、やはり全体的な話でさっきからずっと過多とかオンとか言っていますけれども、少しそういうことが否めないですね。サインというのはすごく重要だと思う反面、何かいろいろあり過ぎて逆によく分からなくなっているんじゃないかな。あと地面に文字まで書いてあるんですけれども、こんなの読む人いるのかな。今の世の中、全部スマホで案内してもらえよう世の中なので、

こういう物理的につけていくことが効果的なのかどうかというのがちょっと疑問に思っています。しかも、3ページのパスがコラージュになっていますけれども、さっきちょっと申し上げたルートを赤く塗っている中に挿入されてくる、そこにまたぼつぼつと現れてくる、それから既存のインターロッキングの形状と矢羽根の形状と、そういうものがすごくばらばらな印象があります。なので、照明計画、サイン計画、まずは全体があると思うんですけども、そこを統合してやはりデザインしていかないと、せっかく4メートルのすごいものをつくっちゃって邪魔だねとならないようにしないといけないんじゃないかと思えます。

(中島部会長)

ありがとうございます。どうでしょうか。北原委員、お願いいたします。

(北原委員)

市民目線でこの計画を拝見したときに、今、謎解きがとてもブームで、すごくわくわくしたんですね。子供もそうなんですけれども、大人もやはりまちの歴史を歩いて探索するみたいなことがすごく好きなので、こういうサインとか仕掛けというものの意図がしっかりと伝わっていけば、横浜のことをより深く知れて人に伝えたくなくなったり、横浜の魅力を伝えるきっかけづくりができるかなと思いついて、これは多分、来街者の方々と横浜市民が同じ体験をして、かつ、横浜市民により深くそのコンセプトを伝えるような、そういう広報計画までうまく運動できていくと、とてもすてきなまちに住んでいるなというような、シビックプライドみたいなものを育むことにもつながってくるかなと思えます。私は今回この委員をさせていただく中で、表彰広報部会で臨海部以外のところもいろいろ視察させていただいたときに、都市デザインのコンセプトみたいなものが住宅地のほうでもしっかりと考えられているということが分かってきました。ただ、住宅地の住民というのはなかなか、港湾部の美しい景観と自分たちの地域の共通性みたいなものが持ちにくいという中で、こうした横浜の魅力のトップランナーのような場所でしっかりとコンセプトが伝わっていくことが、実は自分たちの地域も共通性を持っているということが連続性を持って伝わっていくような、そういう広報的な仕掛けまでつながっていくとよいのではないかと感じました。

(中島部会長)

ありがとうございます。そういう広報とかそのストーリーみたいなものをしっかり伝える必要がありますよね。

あといかがでしょうか。この件に関してご意見ございますか。よろしいですか。大丈夫でしょうか。全体として私も同じような意見ですけども、新たなサインを付け加えただけでなくて、今不要なものがこれによってなくなるとか、そういうことが大事なかなとか、やはりすっきりさせてほしいというのがあるので、その辺のことをもうちょっと考えながらこのサインを考えてほしいです。あと思ったのは、視覚障害者の方とかいろいろな人がいらっしゃるの、このサイン景観についてはもっと多様な人々を対象にしながらやってほしいなとか、それこそが先ほど攻めるデザインとありましたけれども、今のユニバーサルデザインの考え方からすると、ちょっと視覚に頼り過ぎている感じがするので、何かもうちょっと工夫がないかなというところもぜひ考えてほしいなと思いました。

ということで、ちょっと中身が多かったので時間がもう過ぎてしまっていますが、一応、全体をやってきましたので、最後にまた戻りまして、全体を通じて何かご意見ございますでしょうか。これは言っておきたいということはございますか。では、東海林委員、お願いいたします。

(東海林委員)

今日の議論については、前段で政策検討部会での審議を受けてここに来ていると理解しているんですけども、個別の整備計画の具体的な案が登場してくるとビジョンというのがよく分からなくなってきて、今、第一歩を踏み出すときの具体的なもののイメージで止まっているような気がするんですね。なので、これが5年後とか10年後にどのような横浜の魅力がそれによってもたらされるのかというような文言とか、あるいは何かシンボリックなイメージパスなり、あるいはマップとか、みんなが共有できるようなビジョン、こういったものがないと、具体的な行為の良し悪しみたいなことで止まっていくような気がするの、ぜひそういうツールを用意していただけたらいいのかなと思いついたので、最後に発言させていただきました。

(中島部会長)

ありがとうございます。水際線まちづくりの方針があつて個別整備になるのですけれども、その中間点なのか、あるいはもう一回その後にディベロップするような全体の話があるのか、単純に一つの方向で全体方針ができて、あとは整備だけじゃない、あるいはもう一工夫ないと、実際のこの整備の意義みたいなものがうまく伝わりにくいということかもしれません。そのあたりは今日の審議の枠を

超えているような気もしますが、全員の方々の意見というのはやはり何となく同じような方向を向いていると思いましたが、そこは気にされたほうがいいのかと思います。個別の整備になると足し算の話がずっと続くんですけども、ちょっと引き算であったり、あるいは共通要素を引き抜いて、何を一体、目指しているのかみたいなことを改めて検証してもう一回全体の方針をフィードバックするとか、そういうのがまさに都市デザインなのかなという気がしますので、ぜひお願いいたします。

ほかにもたくさん意見が出そうな気もしますが、一回これで事務局に戻したいと思います。

(立石書記)

ありがとうございます。実はここでそれぞれの整備について考え方なり方向性についてご了承いただけるのか、皆さんにお諮りしたいと事務局としては思っております。今日は様々な意見を頂いて、ここでこういう意見がありましたということをおし上げるつもりでいたんですが、時間がなくて。ただ、個々の、臨港パークから始まってサインまでそれぞれについて、山下公園については既に今年度中の工事発注という状況もございますので、そういったことを踏まえ、我々当局側としましては、これから今日頂いた意見を踏まえて都市景観アドバイザーにも相談し、そこで整理しながらよりよいものになっていくように進めていきたいと思っております。臨港パークについては、都市景観アドバイザーの意見等を調整して、もう一度その検討した内容を報告させていただきます。山下公園については、おおむね良い方向で、さらに良くなるためのアイデア等も頂きましたので、そういったところを計画に含めていくということをご了承いただきたいと思います。照明整備については、既存の照明との関係性とか一体的にどうするかという課題もありますけれども、そういったところはもう一度都市景観アドバイザーと調整・検討してご報告します。それから案内サインについても、モックアップ等で検証したほうがよいとか、案内過多であるとか、ユニバーサルデザインの関係とかもありますので、これについて一旦検討しまして、こちらをご報告させていただきます。

山下公園については、都市景観アドバイザーの意見を受けて設計を進めていきたいということをご承いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(中島部会長)

どうでしょうか。私はその方向でいいのかなと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

(中島部会長)

では、そのようにお進めいただければと思います。

(立石書記)

ありがとうございます。これで議事2が終了となりました。

### 議 事 3 その他

(中島部会長)

では、その他、事務局から何かございますでしょうか。

(立石書記)

事務局からはありません。

(中島部会長)

それでは、次回の日程等について説明をお願いいたします。

(立石書記)

今回の景観審査部会につきましては、今申しあげましたような検討をした上で報告等もごさいますが、また日程を改めて調整させていただきますので、その際はよろしくお願いたします。

それから、本日の議事録でございますけれども、これは部会長に確認いただいた上で閲覧に供することとしますので、よろしくお願いたします。

### 閉 会

(立石書記)

では、これをもちまして、第74回都市美対策審議会景観審査部会を終了したいと思います。本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

資 料

・次第、景観審査部会名簿

#### 【議事1】

資料1 藤が丘駅前地区における景観形成について（報告）

#### 【議事2】（非公開）

	<p>資料0 水際線のまちづくりについて</p> <p>資料1 水際線まちづくりにおける臨港パークの整備計画（審議）</p> <p>資料2 水際線まちづくりにおける山下公園の整備について（審議）</p> <p>資料3 水際線まちづくりにおける照明整備について（審議）</p> <p>資料4 水際線まちづくりにおけるサインの整備について（審議）</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の議事録については、部会長が確認する。</li> <li>・ 次回開催の日程は、別途調整。</li> </ul>